

議 事 録

会議名 第7回国見町 CI 策定検討委員会
日 時 令和7年5月27日（月）13：30～15：00
出席者 委員：5名（持地委員、三栗野委員、近久委員、原田委員、伊藤委員）
欠席4名（佐藤委員、鈴木委員、齋藤委員、阿部委員）
事務局：企画調整課長、蓬田、加藤
（株）家守舎桃ノ音 上神田
傍聴：4名

概 要（意見交換等抜粋）

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）国見町 CI（コーポレート・アイデンティティ）について

資料に基づき事務局から今年度の進め方等について説明。

国見町第6次総合計画の基本理念に基づき、MI（マインド・アイデンティティ）及びBI（ビヘイビア・アイデンティティ）を整理し、内容について議論した。

（2）その他

4 閉会

議事録（詳細）

1 開 会

2 あいさつ

企画調整課長よりあいさつ

3 協議事項

(1) 国見町 CI（コーポレート・アイデンティティ）について

資料に基づき事務局から説明。

○前回の振り返り

- ・ 前回検討委員会では町民への意見公募の結果を確認。これまでの議論内容や情報収集したものは活かしながらアウトプットの部分であるグラフィックとフレーズをゼロベースで再検討したいという内容であった。
- ・ 一部委員の変更があり齊藤睦委員が辞退、上神田委員には今年度はC I 事業のファシリテートを行ってもらうため、委員を一旦離れる。委員長不在になるが本日は事務局で進行する。

【質疑】

なし

○検討委員会について確認

- ・ 前回の検討委員会で委員会の立ち位置が明確ではなかったとの意見が出されたため、立ち位置について確認。また、合意形成方法が曖昧だったとの意見もあったため、設置要綱に基づき過半数以上の同意で決定することを確認した。
- ・ C I 策定後の主にロゴの活用について、町の頒布物やアプリケーション（名刺や封筒など）への表示を予定している。またくにみもたん同様、一般の方も利用できるようにしたい。自社製品や農産物のパッケージなど、既存デザインを壊さず使えるようなロゴにしたいため、活用の観点からもご意見をいただきたい。

【質疑】

なし

○今年度の進め方について

- ・ 進め方についてロゴマークをコンペ方式で募集し、1次審査、2次審査を経てC I のロゴを決定、ロゴの制作者と委託契約を結び、活用について提案してもらう。
- ・ 作品公募は目安として6～9月、10月に1次審査、11月頃に2次審査、その後約1カ月の投票期間をとり、年明けに決定、活用を進めたい。
- ・ 公募の手続きについては参加申込書を事前に提出し、その後作品を提出。参加者資格は企業に限定し、フリーランスや個人で応募したい方は共同企業体として参加いただく。応募作品は1社から3作品まで提出可としたい。
- ・ 1次審査は審査委員会にて書類審査を行い候補を絞る。2次審査は各候補のプレゼンにより、審査委員、検討委員、町民による投票で最終候補者を決定し、契約締結したい。2次審査の様子は動画をホームページ等に掲載し、投票期間を設ける。また、ウェブ投票も実施できるようにしたい。

【質疑】

- フレーズは作成しないのか
→後ほど説明する理念の部分に関係してくるが、こちらから決まったフレーズは提示しない。デザイナーの判断でフレーズを作成しグラフィックとあわせて提案してもらうことは可。C IはM I（マインド・アイデンティティ）、B I（ビヘイビア・アイデンティティ）、V I（ビジュアル・アイデンティティ）を決めていくこと。昨年まではV Iの議論がメインであったが、まずはその前段のM IとB Iを決めてしまえば、あとはデザイナーが対応してくれると考えている。
- 共同企業体とはなにか。
→複数の企業で1つの事業を行うこと。フリーランスの方を排除しないため、このような対応としたい。
- ロゴを制作した企業は町から発注を受けるなど、今後の仕事につながる可能性はあるのか
→今後も発注する可能性はある。作成し決定したデータは町の所有になる。
- 応募できる企業は県内に限るなどの制限はあるか。
→制限はないが、県内に縁がある企業などは審査時点で加算できるような審査項目を検討している。
- ロゴ決定後の契約は大丈夫か。金額面等で折り合いがつかず、辞退されるおそれはないのか。
→募集する際に契約上限額を提示する。
- プレゼン審査は直接現場に来ることを要件とすると参加者が減ってしまう心配があり、オンラインでも対応できるようにしたほうが良い気もするが、今後の仕事につながる前提で考えると、役場に足を運べるほうが今後事業は進めやすいとも思う。
→2次審査は現地でのプレゼンを想定していた。ある程度アナログの部分を残し、幅広い年齢層の方に事業に関わってほしいと考えている。
- 審査基準は誰が決めるのか。
→事務局にて素案を作成しており審査委員長と協議後決定する。募集時に公表したい。

○国見町C Iの理念の整理について

- 意見公募にて、町のまちづくりへの理念が見えないとの意見が出されていたため、ロゴを募集する前に、理念の部分の整理をしたい。
- まちづくりの理念について第6次総合計画で基本理念として謳われている「命を大切に 誰もが幸せに暮らすまち くにみ」というフレーズが10年間のまちづくりの基本になっている。この内容から外れないC Iを策定していくが、広く抽象的なため、このフレーズに国見らしさをプラスしたり、ロゴ作成のために理念の精査を本で行いたい。

※別紙資料によりM I、B Iを整理、意見交換を行った。（進行：上神田氏）説明動画有。

- 昨年までの振り返りとして、2年間で地域住民の意向調査や基礎データの収集はできたが、グラフィックに落とすまでのデータの取捨選択や整理があまりできていなかった。また町民への周知や情報公開が足りなかったとの声が各所から聞かれた。そもそもC I自体が分かりにくいので、どのように伝えていけば良いのか悩んでいるが、動画等で発信していきたいと考えている。
- C Iについて改めて確認すると、M I（マインド・アイデンティティ）、B I（ビヘイビア・アイデンティティ）、V I（ビジュアル・アイデンティティ）の3つに分かれている。昨年はM I

とB Iの前段がない状態でV Iの議論を行っていた。今年はまずM IとB Iを決める。その後V Iを町民も交えて決めていく流れとしたい。M IとB Iについて、たたき台を作ってきたので今日はこれらをベースに議論していきたい。

- C I策定にあたり、町の計画を見ると「命を大切に 誰もが幸せに暮らすまち くにみ」がいちばん大きな理念である。まずは総合計画での基本理念とC Iとの関係性について整理する必要がある。総合計画は最上位の計画になっているので、C Iは総合計画よりは下位に位置する。M Iは理念と言われるが、基本理念があってさらにM Iがくると混乱するため今回、M Iは「方針」とし、レイヤーがもう少し下のものとして整理したい。M Iは抽象的な考えや気持ちの持ち方なので、その後どのような行動をとれば良いのかがB Iである。行動するときには使えるロゴやグラフィックがV Iとして決まる。C Iは総合計画とバッティングするものではなく、具体的に実現するための手段のひとつとして捉えたい。
- 「命を大切に 誰もが幸せに暮らすまち くにみ」を細分化して見てみると「命を大切に」の部分には「健康で長生きに暮らす」という意味がいちばん含まれていると思う。関連して「防災・減災」「医療」「福祉」といった話が出てくる。この部分をC Iとして考えることが難しかったため、あまりC Iには含まずに考えていきたい。
- 「誰もが」のところは「誰一人取り残さない」という意味で「社会的包摂性」と訳されており、「子ども」「女性」「ジェンダー」「経済的貧困」「身体、精神障害」など社会的弱者といわれる人をどうやって社会の中で包含していくかというような話である。
- 「幸せに」の部分は日本語に直すことが難しく「ウェルビーイング」をそのまま使っている。「幸福度が高い状態」「良好な人間関係」「経済的な豊かさ」この町のことが好きというような「シビックプライド」が合わさると幸せが生まれるという考えがあるようです。
- 「暮らす」の部分はまちづくりに直結するところで「住宅、住環境」を整える、「仕事、産業」がある、「交通」で移動がしやすい、「保育、教育」などが包含された理念となっていそうだと解釈できると思う。
- 行政で基本理念を作るときは、あらゆる方向を向いて計画を作るため誰からも否定はされないが、何を言っているか分かりにくいといったことは結構起きる。このまま私たちがどう行動すれば良いのかを落とし込もうとすると、少し難しいためそのためのC Iを作っていきたい。
- この回ではM Iを方針とした。M Iが「町民全員で共有して、追い求め続けるべき、町の姿や町民の在り方。」となっていくと良いなと思っている。みんなで同じようなM Iを持ち、みんなで同じような行動をしていくとすると、8000人が1つの同じ方向に向かって動き出すので、とても大きな力になると思う。そのためにC Iを使っていこうと思っている。
- 昨年、一昨年で出された意見を集約し、M Iを3つ決めた。これはあくまでたたき台のため、これをベースに議論したい。
- 1つ目は「福島盆地と阿武隈川水系の恵みをずっと大切に」とした。昨年の議論で出された小学生に国見町で好きなものはなんですか？と聞くと、桃や柿などの答えが多い。そのベースになっているのは、この町が福島盆地のいちばん北に位置し、南向きの斜面のある土地があり、阿武隈川が昔氾濫を繰り返したことで畑の土が良い土になった。そのような場所だからこそ桃や柿、野菜類が育ちやすかったことがベースにあるため、この環境をずっと大切にしていこうということを入れた。
- 2つ目は「先人たちが育んできた文化や歴史を次世代へ。」とした。良い町を作ろうとした時、

次の世代にどう繋いでいくかは欠かすことができない。今まで先人たちが作ってきたすばらしいものが町にはあると思うが、それをどういう形で伝えていくのかは課題のひとつでもある。次の世代にどう繋いでいくのかを入りたい。

- もう1つは「この土地に訪れる人のあらゆる価値観を受け止めよう。」とした。今、国見町は他の地域から見た時に、他の自治体と比べるとさまざまな人が来ており、何か新しいことが起きているような町と言ってくれる人が結構増えてきた。町に訪れた人を町民のみなさんが何らかの形で受け入れる風土があると思っている。これも町の特徴の1つと思い、3つめにこれを入れた。
- 次に行動指針について、先ほどのM Iに基づき私たちが具体的にどう行動すべきなのかという話になるが、3つのM Iと対になるような構成にした。1つめは「与えられた自然の恵みを産業で表現すること。」とした。資料の写真はあんぼ柿を干している様子であるが、農家さんが作業している作業風景はとても綺麗。その自然の恵みをどのように仕事や産業で表現できるかが重要であると思う。例えば飲食店経営者であれば、地域産のものを使い仕事に変えていくと実際に行動が変わっていくことになる。
- 2つめは「次世代を担う人々が学ぶ環境と機会を提供すること。」とした。資料の写真はエリアデザインラボという、まちづくりの人材育成事業の写真になる。若い人たちが学びあえる場所や環境を提供していくことである。
- 3つめは「新しい価値観に隠せず、挑戦し続けること。」とした。M Iの「あらゆる価値観を受け止めよう。」に繋がっており、新しい価値観を受け止めた先に、この町ならではの解釈し、新しいことに挑戦し続けると、町が廃れずに持続的な町になっていくと思う。これらの3つを町民みんなで共有し同じような考えで共有できたら大きな力になると考えている。
- M Iがあり、それに伴うB Iがあり、理念や計画が具体的な事業やアクションにどう繋がっているのか、今町で行われている具体的な事業にも紐づいているのか整理した表を資料に掲載した（資料p.20~21）。「与えられた自然の恵みを産業で表現すること。」は農家のみなさんは既に行っている農業、地域食材を使った飲食店も既にある、国見町は交通網が発達しているので、交通や運送業などの産業の人たちも、その恵みがあつた上で、産業で表現することに繋がっていると思う。「次世代を担う人々が学ぶ環境と機会を提供すること。」は子どもから大人まで参画できるような生涯学習を生涯学習課で行っている、エリアデザインラボや放課後塾ハルなど新しい学びの場を提供するような事業も既に行っている。「新しい価値観に隠せず、挑戦し続けること。」は道の駅を作ったり、大坂オフィスのように町営住宅を新しい使い方に転換すること、アカリのような新しい場所を作ることなど、具体的な事業に繋がるようになっていく。C Iが決まれば、事業をみんなで具体的に考えていくことに繋がってくるかと思う。ここまで決まればV Iに着手でき、ここから先はコンペで決めていくことになる。今日は叩き台的に作ったM IとB I、進め方について議論していきたい。

【意見交換】

委員

- 前回までのC Iは町の現状止まりになってきたが、今回のものはこれからの町をこうしていくという気持ちを感じられるので、今の町の良いところも残しつつ、もっと良くしていこうという感じがして良いと思った。B Iの「価値観に隠せず」だと新しい価値観を恐れずにと受け取れてしまうが、国見の良いところは多世代が繋がって新しい刺激が生まれ、新しい価値観が生ま

れるところであり、誰かの価値観を押し付けて受け入れるのではなく、妥協点を見つけようというところだと思う。M IとB Iの2つめについては「次世代」だけではなく、先人も逆に教わるような表現ができないかと思った。若者にだけ押し付けて終わるのではなく一緒に取り組んでいきたい、若者にバトンパスして終わりではない感じを出したい。

委員

- ・未来を想像できるようなM I、B Iになっていて良いなと思った。今の案でも十分表現されていると思うが、演劇をやっていることは「命を大切に」が脅かされないから芸術や演劇が受け入れられるという順番があると思う。防災減災や福祉が大事になってくると思った。入れ込むことは難しいと思うが、くみ取れる言葉が入っていると良いなと思う。理想を高く持つことはとても良いことだが、その時に困ったことを抱えた人が無視されることがいざばん良くない。

委員

- ・これまでの調査などで出された意見の中で、3つのM IやB Iに入れ込めなかったものはあるか。
→入れ込めなかったものもあるが、大体は網羅されるような表現にしている。
- ・「交通の要衝」という意見がたくさん出されていたと思うが、どこに表現しているか。
→直接的な表現はしていないが、交通の要となった理由は福島盆地の北側に位置し、山あいのこの場所を抜けないと宮城に抜けることができないという地形のことを言っているので、交通の話も含めて表現している。

委員

- ・M I 3つめについて「訪れる人」と断定してしまって良いか。前回、観光目線との意見もあったので「この土地に」のあとの部分の表現が難しい。

委員

- ・「この土地に訪れる人の」を削除し、「あらゆる価値観を受け止めよう」のみにするとかなり広くなる。
→「この土地に訪れる人」の意味合いには、先ほど交通の話にあったように、町に物理的に来る人をイメージしていて、そのイメージがなくなってしまうがそれで良いかどうか。

委員

- ・「この土地に集まるあらゆる価値観を受け止めよう」ではどうか。

委員

- ・そのほうが良いと思う。

委員

- ・にぎわいも感じる。

委員

- ・「人」と言ってしまうと、本当にひどい価値観が出た時にその「人」が敵になってしまうので、「集まる」だと表現が柔らかいなと感じた。

事務局

- ・M Iの3つのワードだけを出された時に、国見町にぎりぎりたどり着けそうな雰囲気を出したいとは思っている。

委員

- ・阿武隈川水系の水は川内地区くらいしか使っていないのではないか。

→確認する。

- 次世代の人にいろいろ引き継げるようにしていかなければならないということを別な人と話していた。2や3のように、次の世代が学べるような環境などがあることが、わかりやすく伝わるものであるといいなと思った。全体的には言葉的にも良い感じにまとまっていると思う。

傍聴者

- これまでの議論とレベルの差があまりにもありすぎる内容であったが、委員の間で資料に書かれている内容や用語の意味が全員で共有できている必要があると思っている。例えば「ウェルビーイング」や「社会的包摂性」「シビックプライド」などの言葉の意味を全員がイメージできているか疑問に感じた。話している側は全員知っていると思っていることでも実は相手は知らないこともあり、話がずっとかみ合わないまま進んでしまうことが一番こわいと思う。委員の中で分からない言葉があれば、質問が飛び交っても良いと思っている。意識のずれのところで言うと、M IとB Iのなかでいちばん引っかかってくるのが3つめ。上神田さんはこの町で行われている先進的な取り組みの先頭に立っているような人なので、少しバイアスが入っている気がした。もう少し中間地点に引き戻せれば良いと感じた。「あらゆる価値観を受け止める」についても、とてもレベルが高く難しいことなので、そこまで言い切ると受け入れられない人も出てくるのではないかと心配になった。どちらかということ、拒絶しないというような方向性の方が良いのかなと感じた。
- 私もわからない言葉が少し多いなと思った。私たちが分からないと他の人も分からないと思うので、教えあいながらみんなで会議していくという様子を見せることができれば、和気あいあいとやっている様子も伝えられて良いと思った。M IとB Iについては全体的には良いと思うが、意見で出された「集まる」といった言葉は国見らしいと思った。
- C Iを策定する目的として、町をどのようにしたいということがあるからなのか、課題を解決するためのC Iなのか、その辺が分からなかった。C Iを見た人が国見に移住したいというのがゴールなのか、すでに住んでいる人にとってはすでにソウルがあるのでC Iはあまり関係がないとも思い、C Iを見る人はどちらかということ外の人だとは思いますが、住んでいる人と最先端で取り組んでいく人とのバランスをとってやっていく均衡点がC Iのあるべき姿なのかなと思った。

→策定の目的は移住定住や関係人口の創出につなげるのが目的。

- 議論を聞きながら自分だったらどのように言葉を言い換えるかを考えた。全体的にはたくさんあるテーマをうまく短くまとめていると思うが、M Iの2つめで一緒に取り組んでいくような表現にしたいとあったので「世代へ」を「世代と」へ1文字変えるだけでも違いが出せると思った。3つめの「土地に訪れる人々」については「集まる」も良いと思ったが「この地を踏む人々」にすると、ただコンビニに寄るだけの人や道の駅に来た人など様々な人を幅広く包括できるのではないかなと思った。1つめと2つめはM IとB Iが関連しているが、3つめは受け止めることと挑戦することとあり、受け止める側のB Iとなるのか、挑戦する側なのか、関連の面からは3つめは到達点が違う気がした。

事務局

- M IとB Iの方向性について大筋は提案した内容で良いか。

→全員賛成

委員

- ・MIを見て国見だとわかるのが理想との話が先ほどあったが、少し難しいと思った。「あつかし」というワードは入れなくてよいか。

委員

- ・福島盆地というと福島市かなとは思う。

事務局

- ・「あつかし」にみなさん思い入れはあるか。

委員

- ・みんな「あつかし」と言っているのを国見に来て感じた。引っかかる単語ではある。

委員

- ・「あつかし」ってどういう意味なのか聞かれることはある。刀剣乱舞に出てくるようで聞かれた。

事務局

- ・「あつかし」を入れると一発で国見っぽさは出ると思うが…

事務局

- ・ワークショップをやると必ず「あつかし山」は出てくる。

委員

- ・先ほど話が出たように、最北端というようなワードはあえて避けたのか。

事務局

- ・ランドマークのような場所として表現しやすいワードとして個人的に「福島盆地の最北端」と言っている。

委員

- ・最北端はあまり良いイメージではない。「県境」もあまり良いイメージはない。

事務局

- ・言葉については再度調整させていただく。

(2) その他

なし

4 閉 会